

# 6 月月例研修会 柳生の里山を歩こう！

羽尻 嵩

6月4日(火)、参加者22名。案内役は、富井、太田、羽尻。

柳生街道は、奈良市の市街から柳生まで通じる古道で、戦国時代には、伊賀や甲賀の忍者・隠密が東国と西国の情報を求めて、諸国の武芸者が柳生の剣を求めて行き交った要所でした。

今回は、この街道の途中にある「阪原」のバス停で下車し、柳生町の「剣聖の里」まで歩きました。

脇道に入ると直ぐに「お藤の井戸」がある。



柳生の藩主になった柳生宗矩(むねのり)がここで洗濯をしているお藤を見初めて妻にしたとのいわれがある。折しも、その横では、昔の美人がくつついでおられた。1971年にNHK大河ドラマ「春の坂道」が放映されて観光客でにぎわっていた頃、彼女は峠道で飲物を販売していたとのこと。

田植えを終えたのどかな田園風景が広がる。



難所の「かえりばさ峠」を超えて巨石信仰で有名な天乃石立神社へと向かう。

柳生一带から笠置にかけては、大昔の大爆発で花崗岩の巨岩が多く見られ〔痲瘡(ほうそう)地蔵や一刀石の岩もその1つ〕、古くは天岩戸信仰の天乃石立神社への参拝者を始め、奈良・平安時代には山岳仏教の修行道場として修行者でにぎわっていたといわれている。



正木坂道場の下の広場で昼食をとり、柳生藩の城があった芳徳寺に向かう。芳徳寺には柳生一族の墓が並んでいる。

柳生家は戦国時代に石舟斎が徳川家康の前で新陰流の剣術を披露したことで認められ、その子の宗矩が関ヶ原の戦いで徳川側に付き、その後、秀忠・家光に仕え、一万二千石の大名に取り立てられて栄えることになる。宗矩は仏教の禅の心を教えた沢庵和尚の影響を受け、剣術を「武士道」にまで高めたともいわれている。



最後に「柳生しょうぶ園」を見学した。ショウブの花の最盛期は6月半ばとのことで、今少し迫りに欠けたが、それでも皆さんは、「花菖蒲」と「あやめ」と「かきつばた」の違いを係の方に聞いたりして、園をゆったり見学されていた。